

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症となっても地域の中で尊厳をもって、その人らしい生活を送ることができるよう、一人ひとりが安心して生活できるように支援するを基本理念として実践している。	会議のたびに管理者は理念や方針を伝えて再確認している。年度ごとに目標を持って実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる運動会、中学校の文化祭や行事に出かけている。	地域の夏祭り、文化祭などに参加している。年間を通して中学生や小学生が奉仕活動に訪れ、村内の「ボランティアの会」も来訪するなど地域の人々とふれあう機会が多い。	気軽に外出することにより地域住民との交流を更に深められることを望みます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族に向けてにとどまっている。行政とも連携して行って参りたいと考えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	未だに行われていないが、年内中に再開する予定で準備している。	村役場から「地域ケア会議を運営推進会議にあてては…」との意見もあり検討している。	災害対策、ボランティアの訪問等の検討課題もあり、早い時期の再開を望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所内に地域包括支援センターがあり相談はいつでも可能である。また月1回の地域ケア会議に参加し、サービス状況等を報告している。	地域包括支援センターが事業所内にあり、村の職員も常駐しているので、緊急相談も出来る。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について正しく理解するように勉強会を行ったり、会議の中で話し合いを行い意識の統一を図っている。	月1回のカンファレンスで毎回話し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待にあたるのか、日頃職員同士で意見交換を行いお互いに注意をし、虐待防止の意識を徹底させている。	/	/

社会福祉法人大樹会グループホームレポートあおき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方が活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ、家族や本人の不安や要望を聞きながら対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会で意見、要望を聞く場を設けている。出された意見は検討し改善に努めている。	以前いただいた意見を検討し、玄関には勤務者がわかるように改善するなど、直ちに話し合い検討し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で職員から出される提案等を取り上げ、よりよいケアが提供できるように努めている。	職員はその場で気づいたことをメモをして、主任から施設長へとつなげている。また施設長から職員への話しかけもあり、良い関係が構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員にゆとりがあるなど、働きやすい環境づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数などに基づき段階的にレベルアップできるよう、外部の研修に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとフレンド会をつくり交流、勉強会、相互評価のための訪問活動を行い、お互いの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とよりよい信頼関係が結べるように職員全員で取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの問い合わせ、疑問・不安など丁寧に聞いて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	いきなり入居で困惑しないように通所サービスなども使いながら徐々にホームに慣れていっていただいた入居者もいる。お試し入居も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と良い関係を築いてから一緒に家事等を行うなど、生活を共にしていく努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係も大切にしている。面会時などに日頃の状況を伝えたり、家族の意向も伺っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自ら出向いていくことはほとんどないが、面会に来ていただいた時などはゆっくり過ごせるように支援している。	家族の協力もあり馴染みの美容院などへ出かけたり、入居前から通院していた医院で受診する等、馴染みの人や知人との交流を楽しんでいる入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の人間関係を把握しており、お互いが寄り合って話せるように配慮している。		

社会福祉法人大樹会グループホームレポートあおき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域ケア会議に出席し、その後の状況を把握するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人、家族、ケア者の意見や要望を聞き、よりよいケアが提供できるように話し合っている。その時々で必要なアセスメント表も使用している。	日々のかかわりの中で顔をみて問いかけ、話をするようにしている。近頃は入居者の状態や雰囲気を感じとっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメント表を使いながら、本人や家族にも話を伺い把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が気付いた事柄を記録し、会議時に検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と面談を行い、意向を伺っている。また本人のアセスメントに基づいて本人本位のケアサービスができるように担当者会議を開いて作成している。	計画作成担当者は本人や家族の思い、意見などを聞き原案を作成し、その後全職員で話し合い、介護計画を完成させている。モニタリングや見直しも職員全員で意見を出し合い検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、ケース記録をつけ、各職員が情報を共有している。その中から本人に合ったケアを話しあっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の状況により、併設施設の寝浴を使ったり、理美容院や出張販売を利用している。		

社会福祉法人大樹会グループホームレポートあおき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関係機関との協定を結んでおり、必要に応じて協力を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設施設の嘱託医師の往診を週2回受けている。 家族の希望で入居前からのかかりつけ医に家族と共に受診している入居者もいる。	嘱託医師の往診が週一回はあり、状態によっては週二回の場合もある。インフルエンザ予防接種も嘱託医によって行なわれている。かかりつけ医で受診し、地域の知り合いの方と話を楽しむ入居者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師が支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行ったり、状況把握ができるよう病院関係者に話を聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りに関する説明を行っている。また指針も定めている。 適宜、重度化した場合の意思確認をおこなっている。	看取りについての指針があり、家族に承諾を得ている。家族には日頃の状態を伝え、これからどうするかを話し合っている。併設施設の看護師やかかりつけ医とも24時間相談ができる協力体制が構築されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回消防署の協力により救急法の講習を全職員が受けている。またいつでも実践できるように毎月各職員で練習をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回事業所全体で避難訓練を実施している。また地域の消防団との協力体制がある。	職員は災害時のシミュレーションを考えたり、火元箇所の安全確認を独自に行なっている。今後統一したチェック表の作成も予定されている。	

社会福祉法人大樹会グループホームレポートあおき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員本位にならないよう常に心がけている。	職員が入居者にかける言葉がけにも年長者を敬う態度と自ら選ぶ機会づくりへの配慮が窺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が決めたり、選べるような支援を心がけている。本人が話しやすいような雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、本人の希望に沿った一日になるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好むものが着られるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みなどは常日頃から本人に問いかけている。またできる範囲で準備、片付けを一緒に行っている。	希望を聞いて献立が決まり、材料も職員と買いに出かけている。割烹着で食事の準備を甲斐甲斐しくしている入居者の姿も見られた。管理栄養士のアドバイスを受け献立表を作成している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック表を使い一人ひとり把握している。また献立は併設施設の管理栄養士に見てもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声かけをし、促している。		

社会福祉法人大樹会グループホームレポートあおき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い把握している。できる限り自分なりの排泄ができるように支援している。	便秘予防に備えるなど排泄チェック表が使用されている。入居者一人ひとりの排泄パターンを分析し排泄の自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトなどを日々の食事やおやつで積極的に取り入れるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回は入浴できるように、本人の希望にもそえることができるようにしている。	最低週2回は入浴しており、希望によっては毎日入浴することが出来る。特殊入浴の場合は併設の特養で行うこともできる。入浴を拒む入居者にも色々考え入浴を楽しんで頂くようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室や共用の居間などで思い思いに休めるように環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容について理解し、疑問に思うことは医師や看護師に聞くなどしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意なことを一緒に行うようにしている。また天気が良ければなるべく戸外に皆で出られるように働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば一緒に買い物に出るなどしている。 今後外出時などは地域の方の応援ももらえるよう働きかけていきたい。	毎日の食材の買出しに職員と出かけたり、施設の周りを散歩するなど個別の支援も行われている。毎年お花見、紅葉狩りなど季節ごとに出かけている。	

社会福祉法人大樹会グループホームレポートあおき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時など自分で買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある入居者には電話をかけるなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレをわかり易くするなど工夫している。また季節の花を飾ったり、季節感ができるように工夫している。	広々としたワンフロアにはキッチン、食堂、居間がある。食堂のテーブルにはお茶のセットがありいつでもお茶が飲める。ソファーや一段と高い和室風の小上がりには何時でも腰掛けたり横になれる。広々とした共用空間だからこそ、のんびり、ゆったりとした気持ちが生まれるのではと思われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小集団で寄れるような小スペースも作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家事にも協力していただいて自分なりの居心地の良い部屋になるように工夫している。	居室も広く、見晴らしも良い。手すりをめぐらした広いベランダが居室ごとにつくられている。コタツ、タンスなど自分の居心地よい居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各場所に手すりがあり、安全な生活が出来るようにしている。		